三三　「那須拾遺記」

那須資晴、豊臣秀吉により烏山城を取り上げられ、佐良土に立ち退いたという。

秀吉公北条攻付八ケ国諸大名開退の事（「巻之四」所収）

（前略）其後秀吉公（豊臣）ハ小田原を悉く攻落し給ひて、又関左八ケ国の諸士の幕下に来らさる者の罪を糺し給ふ折節、那須修理の太夫資晴旗下へ参らさる事を、御立腹ましく〳〵て、烏山を御取上給ひて、織田信長公の御孫正三位の中将信忠の御子尾張の中納言秀信卿へ給りけれハ、那須資晴城地相違なく明ケ渡し佐良土村へ立退給ひけり、（下略）

【補注】

「那須拾遺記」は、江戸時代中期享保十八年（一七三三）に那須郡湯津上村（現大田原市）の木曽武元が、「那須記」の記載に漏れた那須地域の伝承・名所・旧跡などを著したものである。

なお、「那須拾遺記」は、針生宗伯氏が「継志集」とともに全文翻刻し、『那須拾遺記　附継志集』の題で私家版として一九七〇年に刊行している。参照されたい。